

未来へと

もり
わざ
森林と技術をつなげよう

第52回

全国林業後継者大会 おかもやま2024

記録誌

晴れの国 光で育つ 緑の心



第74回 全国植樹祭 岡山 2024
第74回全国植樹祭関連行事

開催日

令和6年5月25日(土)

会場

津山文化センター

【主催】全国林業研究グループ連絡協議会、岡山県林業研究グループ連絡協議会、岡山県、津山市

【後援】林野庁、一般社団法人全国林業改良普及協会、公益社団法人大日本山林会

【大会運営】第52回全国林業後継者大会岡山県実行委員会

未来へと森林と技術をつなげよう



目次

第52回 全国林業後継者大会 おかやま2024 大会記録誌

・大会概要	4
・大会プログラム	5
・オープニング・開会式典	
開会の言葉	
第52回全国林業後継者大会岡山県実行委員会 会長 三木 敬臣	6
主催者挨拶	
岡山県副知事 上坊 勝則	7
全国林業研究グループ連絡協議会 会長 齋藤 正	8
歓迎の言葉	
津山市長 谷口 圭三	9
来賓祝辞	
林野庁長官 青山 豊久 様	10
一般社団法人全国林業改良普及協会 副会長 田中 惣次 様	11
・登壇団体紹介	12
・活動発表	
岡山林業未来会	14
久米郡森林組合	16
岡山県立勝間田高等学校	18
株式会社戸川木材	20
・パネルディスカッション	22
・閉会式典	
大会宣言	
岡山県立勝間田高等学校 森林系列2年 田中 敬大 山本 璃奈	32
次期開催県挨拶	
第53回全国林業後継者大会埼玉県実行委員会 会長 井上 淳治 様	33
閉会の言葉	
第52回全国林業後継者大会岡山県実行委員会 副会長 平田 暁	33
・大会会場・大会の様子	34

大会概要

開催の目的

この大会は、第74回全国植樹祭関連行事として、全国の森林・林業関係者が一堂に会し、林業の振興と森づくりの重要性について意見を交わし、林業を担う人たちが希望や誇りをもって働き続けられる林業の魅力を全国に発信することを目的に開催する。

大会テーマ

未来へと森林と技術をつなげよう
もり わざ

開催日時

令和6年5月25日(土) 13:30~16:30

開催地

津山市 津山文化センター

主催

全国林業研究グループ連絡協議会
岡山県林業研究グループ連絡協議会
岡山県
津山市

後援

林野庁
一般社団法人全国林業改良普及協会
公益社団法人大日本山林会

大会運営

第52回全国林業後継者大会岡山県実行委員会
(構成団体)
岡山県林業研究グループ連絡協議会、岡山県森林組合連合会、
一般社団法人岡山県木材組合連合会、岡山県山林種苗協同組合、
岡山県林業改良普及協会、岡山県、津山市

大会プログラム

オープニング | 13:30～13:45

舞踊集団宮坂流

開会式典 | 13:45～14:15

○開会の言葉	第52回全国林業後継者大会岡山県実行委員会 会長	三木 敬臣
○主催者挨拶	岡山県 副知事	上坊 勝則
	全国林業研究グループ連絡協議会 会長	齋藤 正
○歓迎の言葉	津山市長	谷口 圭三
○来賓祝辞	林野庁長官	青山 豊久 様
	一般社団法人全国林業改良普及協会 副会長	田中 惣次 様
○来賓紹介		

活動発表 | 14:15～15:15

岡山林業未来会	会長 事務局	竹原 真和 氏 廣瀬 美恵 氏
久米郡森林組合	業務課 課長代理 業務課 技術員	小嶋 康彦 氏 横山 芳典 氏
岡山県立勝間田高等学校	森林系列 教諭 森林系列 2年 森林系列 2年	鳥飼 智明 氏 田中 敬大 氏 山本 璃奈 氏
株式会社戸川木材	代表取締役	戸川 睦徳 氏

パネルディスカッション | 15:30～16:15

『共に始めよう植えること・育てること・使うこと』

○コーディネーター	岡山大学 学術研究院 環境生命科学学域 教授	嶋 一徹 氏
○パネリスト	岡山林業未来会 会長	竹原 真和 氏
	岡山林業未来会 事務局	廣瀬 美恵 氏
	久米郡森林組合 参事	池田 政宏 氏
	岡山県立勝間田高等学校 森林系列 教諭	鳥飼 智明 氏
	岡山県立勝間田高等学校 森林系列 2年	田中 敬大 氏
	岡山県立勝間田高等学校 森林系列 2年	山本 璃奈 氏
	株式会社戸川木材 代表取締役	戸川 睦徳 氏
	岡山県森林組合連合会 木材販売課 課長	奥山総一郎 氏

閉会式典 | 16:15～16:30

○大会宣言	岡山県立勝間田高等学校 森林系列 2年	田中 敬大 氏
	岡山県立勝間田高等学校 森林系列 2年	山本 璃奈 氏
○次期開催県挨拶	第53回全国林業後継者大会埼玉県実行委員会 会長	井上 淳治 氏
○閉会の言葉	第52回全国林業後継者大会岡山県実行委員会 副会長	平田 暁

オープニング・開会式典

舞踊集団 宮坂流

昭和46年に岡山で宮坂身志が銭太鼓を中心に傘踊り・日本舞踊等を取り入れた「宮坂流銭太鼓」を設立。岡山の伝統文化の基本を守りつつ、音楽・衣装・化粧の工夫と、スピードと技の魅力を加え新しい郷土芸能を開拓。国内各地だけでなく、海外での国際交流にも積極的に参加し、令和元年、東京都で開催された「民謡民舞全国大会」に出場し、銭太鼓で初の準優勝を獲得。令和3年、2代目に代替わりしたときに、「舞踊集団宮坂流」へと改名。令和4年度民謡民舞全国大会の紅旗戦民舞の部で準優勝を果たし、NHK紅白歌合戦にも出演した経験を持つ。そのパフォーマンスは国内にとどまらず、海外からも高い評価を得ている。



開会の言葉

第52回全国林業後継者大会岡山県実行委員会
会長

三木 敬臣

本日は、全国各地よりここ岡山県津山市までお越しいただき、誠にありがとうございます。それではただいまより、「未来へと森林と技術をつなげよう」をテーマに、「第52回全国林業後継者大会おかやま2024」を開催いたします。



主催者挨拶

岡山県副知事

上坊 勝則

岡山県副知事 上坊でございます。

主催者として、開会にあたりまして一言ご挨拶を申し上げます。

まず挨拶に先立ちまして、本年1月に発生した能登半島地震で亡くなられた方々に心から哀悼の意を表しますとともに、ご遺族と被災された方々にお見舞いを申し上げます。

本日、「第52回全国林業後継者大会おかやま2024」の開催にあたりまして、青山林野庁長官をはじめとすご来賓の皆様、全国各地からご参加いただきました皆様に、岡山県を代表いたしまして心から歓迎を申し上げます。また、本県では初めてとなります本大会の開催にあたりまして、多大なるご尽力をいただきました津山市をはじめといたします関係の皆様、また各協会の皆様に深く感謝を申し上げるところでございます。ありがとうございます。

ご承知のとおり、岡山県は、県土の約7割が森林で覆われており、「晴れの国おかやま」の穏やかな気候のもとで、アカマツやコナラなどの天然林をはじめ、スギ・ヒノキの人工林など多様な森林が育っております。これらの森林は、木材の供給はもとより、県土の保全や水源の涵養、地球温暖化の防止など重要な役割を果たしているところでございます。

また、本県のヒノキの丸太生産高は全国トップを競っているという形でございますけれども、ここ津山市を含む美作地域を中心とした県北部で製材加工された製品は、古くから美作材と呼ばれ、全国に広く流通しております。また、西日本有数の木材集積・加工地として発展してまいったというところでございます。

現在、人工林資源は本格的な利用期を迎えており、本県では、林業生産活動を通じた林業のサイクルを循環させるとともに、林業の成長産業化と森林の適正な管理を進め、少花粉スギ・ヒノキへの植替えや針広混交林への誘導などに取り組んでいるところでございます。

本大会では、「未来へと森林と技術をつなげよう」をテーマに、林業の振興や森づくりの重要性について意見を交わし、林業を担う人たちが希望や誇りを持って働き続けられる林業の魅力を全国に発信することとしております。まさに先ほど申し上げた、人工林、天然林、形態はそれぞれ違いますが、やはり人の手、すなわち「技術」があってこそ「森林」であるということかと思えます。本大会を契機に、全国各地で林業の担い手の確保が図られ、将来にわたって持続可能な森林経営が広がっていくことを切に願っております。

結びといたしまして、本大会の成功と、ご出席の皆様方の今後ますますのご活躍、ご多幸を祈念申し上げます。私の挨拶といたします。本日はよろしくお願いいたします。



主催者挨拶

全国林業研究グループ連絡協議会
会長

齋藤 正

We love forest!

皆さん、こんにちは。私は、全林研会長の齋藤でございます。主催者の一人として、開会に際しまして、ご挨拶を申し上げます。

本日は、ここ岡山県津山市において、「未来へと森林と技術をつなげよう」をテーマに全国林業後継者大会2024を開催しましたところ、全国より、こうしてたくさんの皆様にご参加をいただき、開催できましたことを深く感謝申し上げます。

また、公務多忙のところ、林野庁長官 青山豊久様、大日本山林会会長 永田信様をはじめ多くのご来賓の皆様にご臨席をいただきまして、誠にありがとうございます。

また、皆様には日頃より私たちに対し、多大なるご理解とご協力、ご指導をいただき厚くお礼を申し上げます。そして、今回、大会をご準備いただきました実行委員会の皆様、岡山県様、津山市様、そして、多くの仲間に深く感謝を申し上げます。

さて、この大会は52回を数え、多くの実績を重ねてまいりました。時代が変わっても、人づくりを通じて、林業の発展を追求し、地域の活性化を目指す大会精神は今日も受け継がれております。

今回は特に、私たち林業者がここに集い、林業の振興と森づくりの重要性などについて意見を交わし、林業を担う仲間たちが希望や誇りをもって働き続けられるなどの林業の魅力を全国に発信していきたいと思います。それにより、今後も多様な人材を頼もしい林業の後継者として育て定着させてまいります。

さらに、私たちは、大会の成果として、今後も持続可能な森林管理を行うことにより、国民の期待する災害に強い国土を作り、安定的な木材生産による中山間地域の活性化、地球規模での気象変動を減らすことに寄与しながら、私たちの労働安全と生活の向上を目指してまいります。

本日は長時間にわたる大会になりますが、皆様最後までよろしくお願いいたします。

結びにあたり、本日のご盛会と国、都道府県、関係各位の更なるご指導とご鞭撻をお願い申し上げ、ご臨席の皆様のご健勝、さらに世界平和のいち早い実現をご祈念申し上げ、挨拶といたします。

本日はよろしくお願いいたします。



歓迎の言葉

津山市長

谷口 圭三

本日は、「第52回全国林業後継者大会おかやま2024」に、ご多忙の折にもかかわらず、多くの方々にご出席をいただき、誠にありがとうございます。

また、青山林野庁長官をはじめ、ご来賓の方々、そして林業に携わる皆様方が一同に会するこの機会に、市長としてご挨拶申し上げることを大変光栄に思います。

まず、全国で林業に携わる皆様には、日々のご努力に心から敬意を表します。山間部での重労働や厳しい気候条件の中、皆様の情熱と献身的な取り組みにより、我が国の林業は支えられています。

現在、林業は多くの従事者が高齢化しており、後継者不足や技術の伝承、そして都市部との格差や経済的な課題などを抱える反面、今後の林業のあり方に期待を寄せられている部分もあります。例えば、ドローンやAI、IoTなどの技術革新の導入、観光業やバイオマスエネルギーなどの多角的な経営、そして地域産業と連携し、地域全体で林業を支える仕組みの構築に向かうことで、林業の価値を高め、活力ある産業となることが見込まれています。皆様の熱意を結集し、知恵を出し合うことで、課題を乗り越えることができると確信しておりますので、この大会が未来を担う皆様の交流と学びの場となることを心より願っております。

岡山県は、ヒノキの生産量が全国トップクラスであり、特に県北地域のヒノキは「美作ひのき」としてブランド化され、遠くは海外にも流通し、その品質の良さが認められているところでもあります。ここ津山市でも、林業の振興に力を入れており、この美作ひのきを初め、地域材の利用を高める取り組みを進めております。市内では、今年、市立図書館の家具や地元金融機関の店舗の改築で使用され、住民の皆さんが利用する施設において、直接、美作ひのきに触れる機会が増えているところであります。また、これまで地域材を利用した住宅へ、市の補助金を支給していましたが、今年度からは事務所や倉庫などの住宅以外にも拡充し、幅広い用途での利用を促しているところであります。

この他、地域材が、地元職人の手で利用価値を高めた事例といたしまして、昨年、すぐれたデザインに贈られるグッドデザイン賞に、市内の会社5社が製造した家具「TSUYAMA FURNITURE」が選ばれました。木材の持つ美しさや肌触りを活かした技術力とチャレンジ精神が実現したデザイン家具であり、地元林業の秘めた力を地域全体で開花させる動きに期待を寄せているところであります。

今後も若い世代が安心して林業に従事できる環境を整え、林業が地域の誇りとなり多くの若者が参入しやすい産業となるよう努めてまいります。

結びに、この大会が皆様にとって有意義なものとなり、林業の未来を切り拓く一助となることを祈念いたしまして、私の挨拶とさせていただきます。本日は誠にありがとうございます。よろしくお願いいたします。



来賓祝辞

林野庁長官

青山 豊久 様

皆さん、こんにちは。ご紹介いただきました林野庁長官の青山でございます。

本日、ここに第52回全国林業後継者大会が、「未来へと森林と技術をつなげよう」をテーマに、第74回全国植樹祭の関連行事として、全国各地から林業後継者が集って開催されますことを心からお慶び申し上げます。また、本日ご列席の皆様方におかれましては、日頃より、技術や知識の普及、後継者の育成をはじめとして我が国の森林・林業の振興に多大なる貢献をいただいていることに対しまして、心から敬意を表します。

はじめに令和6年能登半島地震により亡くなられた方々のご冥福をお祈りするとともに、被災された方々に心よりお見舞い申し上げます。林野庁といたしましても、被災地に寄り添い、1日も早い復旧・復興に向けて全力で取り組んで参ります。

ここ岡山県におかれましては、「21おかやま森林・林業ビジョン」を掲げ、様々な施策を展開されるとともに、林業への就業希望者などを対象とした研修等、技術力のある優秀な人材の育成に取り組んでおられるとお聞きしております。貴県の取り組みに感謝申し上げますとともに、引き続きの政策推進につきまして期待を申し上げます。

さて、我が国の人工林の多くは利用期を迎えており、豊かな森林資源を次世代に引き継いでいくためにも、伐採後に再造林をしっかりと行い、「伐って、使って、植えて、育てる」森林資源の循環利用を着実に進めていくことが重要です。また、そのためには、新技術の開発や普及をはじめ、林業収支のプラスへの転換を図り、林業をより魅力ある産業にするとともに、未来の林業を担う人材を確保、育成していくことが必要であると考えております。

林野庁といたしましても、これらを通じ、林業後継者の方々がより一層活躍いただけますよう、地域の林業振興活動、関係機関の技術者間の連携推進、教育機関の取り組みへの支援などに努めてまいります。

最後になりましたが、本大会を主催される関係者の皆様のご尽力に感謝申し上げますとともに、ご参集の皆様方のますますのご活躍とご健勝を祈念いたしまして、お祝いの言葉とさせていただきます。

本日はおめでとうございます。



来賓祝辞

一般社団法人全国林業改良普及協会
副会長

田中 惣次 様

ここ岡山県津山市において、第52回全国林業後継者大会が関係者の方々のご努力により、このように盛大に開催されることを心からお祝い申し上げます。

さて、既に我が国の森林資源は投資一方の時代から収入・収穫の時代に移り変わっております。森林環境譲与税の配布等に見られるように、森林への国民の大きな期待を受け、林業の活性化や農山村の振興を図っていく大きなチャンスでもあります。

皆伐・再造林は勿論ですが、林内環境を整備する間伐林業も積極的に進めていかねばなりません。そして、個々の経営努力は勿論ですが、森林の持っている外部経済効果をさらに大きく内部化することにより、多くの人々が山で暮らし、生活林業として汗をかける素晴らしい時代にすることが私たちの役目でもあります。

本日、ここに全国各地からお集りの皆様は、地域林業の発展に向けて核となってお活躍されている方々でありますので、人材の育成、後継者の育成のため、強力にご尽力いただくことをお願い申し上げます。人と道と機械が林業の三点セットと言われておりますが、一番重要なのが自らも含め、担い手、人の確保ということです。

最後になりますが、本大会の開催にあたってご苦勞いただきました林業研究グループの皆様、そして、地元、岡山県と津山市の皆様にご感謝申し上げますとともに、大会のご成功と本日、ご参集の皆様の益々のご健勝を祈念申し上げお祝いの挨拶とさせていただきます。

本日は誠にありがとうございます。

登壇団体紹介

岡山大学

平成26年から岡山大学の教授を務めており、様々な人為的な攪乱を受けた生態系において、自然生態系を早期に回復するための研究に取り組んでいる。第74回全国植樹祭岡山県実行委員会においては、森林資源循環利用専門委員会委員長を務めている。



学術研究院
環境生命科学学域 教授
嶋 一徹

岡山林業未来会

平成31年に設立された岡山県内で最も新しい林業研究グループで、会員は森林組合、林業事業体、市町村職員など様々。労働災害をなくすべく、伐倒技術等の研鑽に励むとともに、それぞれの職場で技術の横展開を図っている。また、幼児への木育活動や高校生を対象とした林業体験など、担い手育成に向けた啓発活動についても精力的に行っている。



会長
竹原 真和



事務局
廣瀬 美恵

久米郡森林組合

旧久米郡内の5つの森林組合が合併し、平成8年に設立。地域の美しい森林を次世代につなぐため、町や林業事業体と連携し、森林所有者等への実務研修を実施するとともに、林業への就業意欲のある人向けの林業体験や小中学校における森林環境教育などの啓発活動にも力を入れており、新たな担い手の確保に繋げている。



参事
池田 政宏



業務課 課長代理
小嶋 康彦



業務課 技術員
横山 芳典

岡山県立勝間田高等学校

岡山県内で唯一、森林コースのある高校。地域の林業事業者・森林組合・林業研究グループと連携した人材育成のほか、世界大会予選となる日本伐木チャンピオンシップin青森に全国初の高校生選手として出場するなど、後継者育成に向け積極的な取組を行っている。



森林系列 教諭
鳥飼 智明



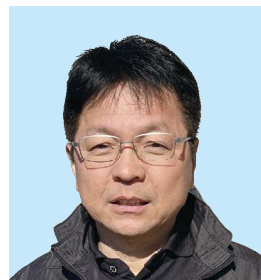
森林系列 2年
田中 敬大



森林系列 2年
山本 璃奈

株式会社戸川木材

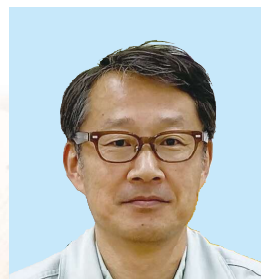
創意と工夫を経営理念に、平成8年の設立以来、常に先進の技術・設備を導入した木材生産を行っており、生産性の向上と業務負担の軽減に繋げている。また、従業員の家庭と仕事の両立を応援し、男性の育児休暇取得促進、週休2日制の導入など働きやすい環境づくりにも努めている。



代表取締役
戸川 睦徳

岡山県森林組合連合会

昭和16年の設立以来、約80年にわたり岡山県の森林資源充実に貢献してきた。近年では、主伐後の再造林率の低下に対し、県内の森林組合と連携した皆伐跡地への造林、下刈経費の支援や、新たな木材活用のため、岡山県産材100%の合板の商品化など、林業サイクル循環のための取組を進めている。



木材販売課 課長
奥山 総一郎

活動発表

—— テーマ ——

未来の林業担い手育成の為に

【岡山林業未来会】 会長 竹原 真和 事務局 廣瀬 美恵



【廣瀬】

みなさん、こんにちは。晴れの国おかやまへようこそ。

まず、地域の概要。はじめに、事務局を置いているのは、岡山県の県北に位置し、中国山地から流れ出る県内3大河川の一つ、一級河川吉井川の源流があります。

岡山林業未来会の結成と現状。岡山林業未来会は、林業の指導員を育成することを目標にし、平成31年4月に設立しました。メンバーとしては、県内全域にわたる林業事業体に従事している人たちで形成されています。これからの林業を担う人たちの人材育成、安全・スキルを上げていきたいと思い、また今一度初心に戻り、伐倒方法を見直し、労働災害を防止したい思いで結成しました。結成当時の会員は5名でしたが、現在は男性12名、女性1人の13名になりました。2ヶ月に1度会員が集まり、自分たちの近況の報告をしたりしています。また、会員同士でスキル向上のために話し合いをし、各自スキル向上を図ることに努めています。

岡山林業未来会の取り組みについて、

1. 林業の担い手の育成

緑の雇用研修の講師などを通じて、今まで疎かになっていた正しい知識とスキルを未来の林業担い手に伝えていく。

2. 未来会会員のスキル向上

伐倒スキル、伐倒指導方法の練磨、JLC、ロープクライミングなど新しい分野への挑戦をし、会員個々のレベルアップを図る。

3. 林業指導者の育成

現在林業に従事している人たちに対して、新設された林業技術研修棟などを活用し、林業指導者を育成していく。

4. 林業の普及啓発

今後も木育や林業体験を継続し、木の良さや自然の大切さを伝えていく。

【竹原】

それではこれまでの活動を紹介します。まず未来塾です。

山の日に林業研修棟で会員が集まり、各事業体でインプットしたことをアウトプットするということで、利点や欠点などを洗い出し、さらにレベルアップすることを目指しています。正確な会合線を作るために、受け口の練習を何度もします。斜め切りからすれば綺麗な会合線を作りやすい。ガンマークの見方の練習、受け口の修正、出来上がればみんなで評価します。

次は、林業労働災害撲滅研修です。未来会から複数名受講しました。普段は岡山県の研修講師としての立場で、この研修では研修生として参加しました。自分たちが研修生として参加することはとても重要で、自分の癖を面識のない講師に見てもらうことで、自分の欠点が変わり、とても勉強になります。未来会会員で同じ情報を共有することで、会員同士の連携を図ることができます。

続きまして、熊本県庁未来会交流会です。初めに個人的に観光で熊本県によく行っていました。SNSを通じ熊本県庁職員さんや熊本の林業従事者と知り合い、熊本県でもチェーンソー競技があることを教えてもらい、2年続けて観戦しに行きました。岡山で林研グループを立ち上げることを伝えると、熊本県林研グループとの交流会を企画していただきました。その時に、岡山林業未来会の設立に感銘を受けて、私たちも何かせねばと任意団体熊本県庁未来会を設立されました。とても熱い県庁職員さんだと感激したのを覚えています。ですが、コロナ禍となり、昨年ようやく初めての交流会ができました。午前にはワークショップで、テーマは、林業の安全対策、指導者の確保、指導体制、現場と行政の本音の関

わり方、付度ない話し合いで文字にする。午後からは実技講習です。岡山未来会が緑の雇用の集合研修で取り入れている指導方式で、熊本未来会のメンバーに指導してみました。受け口、追い口の作り方を実習しました。これが熊本県庁職員なのか！と、とても熱さを感じた1日でした。

次は、岡山県林業就業支援ガイダンスの1日林業体験です。チェーンソーの操作方法、玉切り体験、グラップル操作を体験しています。時には、私たちの実際の体験談なども交えて話をします。初めて扱う方がほとんどなので、安全、安心、そして楽しかったと思えるようにサポートしています。

続いては、美咲町1日林業体験の様子です。Iターン、Uターン移住者向けの体験で、未来会はチェーンソー体験を担当します。最終的に木を安全・安心して倒せたという体験になります。未経験者がチェーンソーを使って木を倒す。そこには大変な危険因子が隠れています。そして、講師としてとても多くの経験値を積むことができます。

【廣瀬】

毎年、岡山県内の1～2保育園の年長さんを対象に木育と題して、木と触れ合い、自分たちの身近なところに木材が使われているということを学んでもらい、またノコギリを使い、実際に枝を切ってもらいます。その切った枝を使い、自分たちのオリジナルキーホルダーを作っています。色んなキーホルダーができ、園児たちもとても喜んでいて、見ていてとても元気をもらいます。この子どもたちが大きくなった時に、1人でも木や山に興味を持ってくれるといいなと思い活動をしています。

【竹原】

次に、勝間田高校さんの社会人講師になります。これはJLCに関する指導になります。未来会会員にはJLC選手、審判スタッフも在籍しており、来月6月には、青森大会に2名の会員が出場します。チェーンソーの取り扱い方、ガンマークの使い方、また林業系就職が内定している生徒に林業人としての心得などを話しました。

次に、真庭高校林業体験になります。真庭高校久世校地の2年生を対象に林業体験です。未来会設立当初から5年連続での開催になります。この高校には林業系のコースがないにもかかわらず、地場産業として盛んな林業を体験して就職先の一つの候補に入ればと、先生の熱い思いで森の担い手育成事業として参加しています。

また、ただ体験をして終わりではなく、森林・林業についての理解を深め、林業の担い手育成につながる意識が醸成されるとともに、チェーンソーの安全な操作方法を習得するという目的を持って実施しています。もちろんチェーンソーを持つのも初めてなので、チェーンソーの取り扱い方、チェーンブレイキの掛け方・解除の仕方など、何度も何度も繰り返し教え、実践に挑みます。実際にエンジンをかけ、玉切りの挑戦です。上から切ったり、下から切ったりしました。女の子もチェーンソーを持って体験してもらいます。脇をしめてチェーンソーを持たせ、足の位置を確認しながらの体験でした。

ロープクライミングの体験では、国内認定樹護士アーボリスト、国際認定ツリークライマースペシャリストの資格を持つ日本一の会員をメインに指導しています。体験の中では一番の人気になります。実際に体験してもらうと、男の子はスルスル上がっていく子が多いです。女の子はなかなか要領がつかめず、悪戦苦闘していました。「これを仕事としているなんてすごい。」と言っていました。生徒たちに体験後アンケートに記入してもらったら、「楽しかった。」、「ルールを守れば安全。」、「林業って、おじいちゃんがするもんだと思っていた。」など、色んな感想をいただきました。少しでも林業を身近に感じてくれれば嬉しいと思いながら実施しています。

私たちは現場を休んだりしての参加になるため、会員が全員揃うことは少ないのですが、本当に林業が好きでなければできない話です。本当に好きな者が志高く集まる集団だからこそ、楽しく意味のある活動ができるのだと思います。

最後になりましたが、“花よりも花を咲かす土になれ”。私たちは“土”だと思っています。土は放置すれば固くなります。硬い土では良い作物はできません。土であれば常に耕すことをしなければなりません。フカフカで柔らかく栄養のある土になるために、これからも会員全員、心を一つにして自己研鑽していきます。

ご清聴ありがとうございました。

—— テーマ ——

地域林業力の向上と未来の森林・人づくりへの取組

【久米郡森林組合】 業務課 課長代理 小嶋 康彦 業務課 技術員 横山 芳典



【小嶋】

ご紹介いただきました久米郡森林組合の小嶋と隣が横山になります。どうぞよろしくお願いいたします。

それでは、「地域林業力の向上と未来の森林・人づくりへの取組」ということで発表させていただきます。

まず、久米郡森林組合の紹介をします。事務所のある美咲町は、岡山県のほぼ中央部に位置し、この会場より南へ車で20～30分ほどの場所にあります。久米郡久米南町と美咲町及び津山市の一部の地域を管轄しています。従業員数は、内勤職員8名、現場作業員3名で、そのうちIターン者が3名です。顔のよく見えるアットホームな職場環境で、どちらかといえばイベント好きな組合です。管内の人工林率は約35%と高くはありませんが、広葉樹林を含め身近に森林を感じることができる棚田が有名な中山間地域です。

次に、私、小嶋の自己紹介をします。自然の中で働きたいと思ったのがきっかけで、「より一層林業の振興を図る地域がいいのでは?」との提案を受け、平成18年に広島から美咲町に来ました。前職は造船業でしたので、海の仕事から山の仕事へよく来たなと当時はよく言われたものです。4年間現場作業に従事し、その後現在の林業技師職についています。

小嶋、横山ともに現場作業員出身で、自ら作業した方が効率がよいと判断した時は現場作業もこなし、事務と現場との両立にも力を入れています。庭の木1本の伐採などの組合員の小さなニーズにも対応するため、オールマイティーな現場技術者の育成を目指しています。

次に、組合でも何か特徴のある取り組みをしたいということで、県や町役場、地域の森づくり団体、学校からの委託やご協力もあり、普及事業に力を入れており、その紹介をさせていただきます。まず、林業に就業意欲のある方、興味のある方向けに、平成28年度から1日林業体験会を年に2、3回程度開催し、現在も継続中です。また、実務研修会も開催し、少数でしっかり経験できる体験会として、県内外を問わずこれまでに130名を超える方に参加してもらっています。また、町主催の事業体向けの技術の向上を図る研修会にも参加し、横のつながりを大切にしています。

平成28年度、第1回目の林業体験です。当初は、林業と観光、地場産業や地域の人を巻き込んで行う林業体験ツアーでした。例年、雪は少ない地域ですが、大雪の後で、辺りは雪景色になりました。雪の舞う中、桜の名所で植栽の体験をするという経験はなかなかないということで、皆様開き直って楽しんでおられました。

平成30年度頃より、実際に林業の作業を行うことに重きを置いた体験会としました。組合の現場技術者や地域の林業事業体に講師として参加してもらい、自分の持っている技術のアウトプットの場にもなっています。

近年、体験会参加者が組合に就業し、翌年以降の体験会でスタッフとなり、学んだ技術を教えるという好循環も生んでいます。先ほど発表された岡山林業未来会様にも講師として来てもらい、伐倒における基本的な技術と安全について体験者に合わせた指導をもらい、毎回1番人気の体験になっています。参加者とスタッフ全員とでローテーションで話をする座談会もあり、参加者にとっても私たちにとっても刺激のある有意義な時間になっています。

次に、2日程度の講座で行われる実務研修会も開催しています。自伐林家やその後継者、森林管理を行いたい方向けに、森林内作業、木材市場のこと、森づくりなどについて、森林経営をするための基本的な講座となっています。この講座を受講された自伐林家の方の中には、林業用ヘルメットや防護ズボンなどを購入し、定期的に組合に顔を見せてくれ、安全装備の必要性を認識することにもつながっています。

これまでに体験会や研修を受講された方が、組合と

町内の林業事業体等に就業しています。継続して研修会を行っているリピーターもでき、「自分で木を伐る自信になった。」との声を聞くこともあり、林業における関係人口の創出にもつながっていると思っています。昨年度から始まった町主催の林業技術向上研修は、外部講師を招いて、伐木について最新の技術と安全の学び直しを行いました。地域林業を推進するうえで、組合と林業事業体に必要な協力体制や森づくりの方向性など、研修会を通して意思疎通を図っています。

【横山】

皆さん、こんにちは。私、横山の紹介です。私は7年前に静岡から晴れが多く災害の少ない晴れの国岡山に住みたいと思い、美咲町に移住してきました。いわゆるIターン者になります。移住と同時に組合に就職し、木こりとして緑の雇用で3年間の研修を受けたのち、配置転換で現在の事務、営業職に就いています。

次の普及活動ですが、共生の森・保育の集い、チェーンソー及び刈払機等の操作研修会、小学校への森林教室や職場体験、インターンシップの話などをしていきます。

まず、木の中で楽しみたい方、森林ボランティア向けの本育系イベントの共生の森です。森林整備、プレイパーク作り、ネイチャーゲーム、しいたけ植菌などを2歳から80代の老若男女、リピーターとさまざまな参加者が五感を使う体験を行っています。森林インストラクターなどにも指導をお願いし、森の恵み、人の温かさなどを感じられる活動になっています。

次のおかやま森づくりサポートセンターの事業で、森林整備活動を既に自分たちで行っている方向けにチェーンソーや刈払機の講習会を開催しています。林業体験では、教える・発信することが軸ですが、もう既にある程度、活動をしている方たちなので、この講習では本人の技量や知識に応じた双方向の形を意識しています。

また、この講習や共生の森では、参加者同士でもやり取りをしているのを多く見かけます。小学生の森林教室の受け入れの話もします。学年とフィールドに合った企画をして、低学年では、丸太切りや組合お手製の木製ボーリング、木工クラフト作りなど木に触れ合ってもらい体験学習をして、そして少しの林業の話です。子どもたちには「楽しかった。」とか「面白かった。」「またやりたい。」と言ってもらいました。楽しければ何でも勉強になるんじゃないかと思います。高学年の総合学習の時間では、水源涵養装置シニコミールや重機、ロープワークなど

をします。山を歩くだけでも子どもたちのたくさんの笑顔に出会え、「ザウルスに乗れて楽しかった。」「丸太切りしたコースターを弟にいい匂いと言われた。」「将来は木に関する仕事をしてもいいかな。」など嬉しい感想を貰えます。

地元の中学生の職場体験や高校生のインターンシップの受け入れでは、実際の作業に即した体験を2、3日かけて行っています。中学生では活発でテキパキとした作業、重機操作をする姿を見ることができます。体験後には、林業の大変さを体力、技術面はもちろん、時間のかかり方について感じてもらえました。時間軸の長さに関しては、他の産業とは桁が違うことは、自分でも仕事をしている中で難しさを感じますので、それが伝わったのはよかったです。

また、県や県森連主催の就業ガイダンス、仕事説明会への参加など、林業の相談窓口にもなっています。ガイダンスでは興味のある方向けの説明になり、就職フェアでは他産業の中での学生への発信になりますので、同じところ、違うところを気にしながら説明するようにしています。

地元の祭りにも事業体として参加して、楽しい林業の普及にも努めています。

【小嶋】

最後に、地元の大井和みどりの少年隊の活動について説明します。先程の共生の森のイベント、それから通学路の環境整備、緑の募金の街頭活動など、地域の行事に積極的に参加してくれています。少年隊の趣旨のとおり、社会貢献活動や森や緑にかかわる自然体験活動を通して、次代を担う子どもたちが、ふるさと・人を愛する心豊かな人間に育っていかれることを期待しております。

昨年、岡山県の少年隊の代表として、東京で行われたみどりの感謝祭に参加しました。佳子内親王殿下の前で誓いの言葉を述べた子どもたちが、明日の全国植樹祭に天皇皇后両陛下のお手播きの介添えなどをさせていただきます。今まさに最後のリハーサルをして、緊張もしているとは思いますが、無事に役割を果たせるようにエールを送りたいと思います。

組合では、このような多くの普及事業を展開しており、これからも管内を中心に、岡山県の担い手確保、後継者の育成、技術の継承に貢献していきたいと考えています。私も横山も森林・林業を通じてたくさんの方とお会いできることに感謝し、発表を終わらせていただきます。ご清聴ありがとうございました。

—— テーマ ——

林業従事者育成に向けた取組

【岡山県立勝間田高等学校 森林系列】 2年 田中 敬大 2年 山本 璃奈



【田中】

岡山県立勝間田高等学校の森林系列は、県下で唯一、森林・林業について専門的に学べる系列です。私たちは、森林系列での学びについて紹介させていただきます。本日は、最初に岡山県立勝間田高等学校の紹介を、次に、森林系列、後継者育成に向けた取り組みについて報告します。

まず、岡山県立勝間田高等学校について紹介いたします。勝間田高校は、総合学科で5つのコースの学びがあります。森林コース、自動車コース、園芸コース、食品コース、ビジネスコースの5つのコースです。

まず、森林コースについて紹介いたします。森林コースは、岡山県で唯一、林業が学べるコースです。森林コースでは、高性能林業機械、チェーンソー、日本伐木チャンピオンシップ、ツリークライミングなどさまざまな学びを行っています。県の林業技術研修棟で日本伐木チャンピオンシップの実技指導を受けたりしています。

次に、自動車コースの紹介を行います。自動車コースは、工業基礎、自動車整備、製造について学習していきます。高校在学中に3級自動車整備士の受験資格を取ることができます。溶接や旋盤など工作に必要な技術も

学びます。カートを制作して子どもたちに体験してもらったり、実際にダカールラリーに出場したレース用のトラックを見学したりと、さまざまな体験もできます。自動車整備の技術を競う大会にも出場しています。

次に、園芸コースの紹介を行います。園芸コースでは、草花や野菜、園芸の経営について学びます。駅に本校で栽培した花を植えたプランターを設置したり、小学校に出向いて生徒たちが小学生に花の植え方を教えたりしています。校内では、育てたシクラメンの花などの販売や野菜の苗などの販売も行います。毎回好評で多くの方にご購入いただいています。

次に食品コースの紹介を行います。食品コースでは、食品の栄養や加工、製菓、流通、販売などについて学習していきます。人が口にするものを製造していきますので、品質管理をしっかりとしながら責任と優しさを学びます。カルピスに似た酸乳づくりや肉味噌作りでは、髪の毛など見えないように白衣を身に付けて実習を行っています。ソーセージや他にも洋菓子、和菓子などの製造方法を外部講師の方から学んだり、文化祭などで製造した加工品の販売を行ったりしています。本校の食品コースでは、食品を加工して製品を作るための知識や技術を学びます。

次にビジネスコースの紹介を行います。パソコン関係や簿記について学習し、さまざまな検定に挑戦します。パソコンを使っての情報処理や表計算などの操作方法、プレゼン発表の技術やビジネスシーンに必要なマナーや態度を学びます。そして、その学んだ技術を活かし、インターンシップを行ったり、地域のマルシェに参加して他コースが製造した商品を販売したりしています。

部活動について簡単に紹介します。部活動は、山岳

部、なぎなた、剣道、郷土芸能、弓道、自動車、農業クラブなどがあります。昨年度は弓道部がインターハイに出場しました。

以上で勝間田高校の紹介を終わります。

【山本】

続いて、森林コースの後継者育成に向けた取り組みについて紹介します。

まず、地域の林業事業体、森林組合、林研グループとの連携です。社会人講師として、岡山市の林業・造園事業体の参^さ伍^ご捌^{はち}代表でアーボリストの小野英亮様から特殊伐採についてご指導いただきました。森林組合で勤務された後、若くして起業されたかわうち林業様からは林業事業体の起業についてご講義いただきました。また、岡山県では最大規模の製材業者である院庄林業様やドローン、GNSS、電子コンパスなどを活用したスマート林業に取り組んでおられ、地域の先進的な林業家である森淵林業様からもご指導いただきました。本日もご参加の岡山県北で後継者育成に取り組んでおられる先進的な林研グループである岡山林業未来会会長の竹原様や会員の佐藤様からもご講義いただきました。

インターンシップでは、津山市森林組合、久米郡森林組合、美作東備森林組合、岡山県森林組合連合会、おかやまの森整備公社様などにお世話になりました。

行政機関との連携では、高性能林業機械体験研修、インターンシップ事業やオンラインインターンシップなどを実施しました。オンラインインターンシップには多くの関連企業様にご参加いただきました。

また、特色ある取り組みとしては、日本伐木チャンピオンシップへの参加が挙げられます。昨年度は、鳥取大会で審査員を務められた岡山県森林組合連合会の江草様やかわうち林業の河内様にご指導いただきました。

日本伐木チャンピオンシップには、令和3年度日本伐木チャンピオンシップ鳥取大会、令和4年度日本伐木チャンピオンシップ青森大会、令和5年度日本伐木チャ

ンピオンシップ鳥取大会と、現在までに3年連続出場しています。今年度も来週末に青森大会が開催され、本校からは2年生の橋本侑奈さんが出場します。この会場にも青森大会に行かれる方がおられましたら、選手にご声援よろしくお願いいたします。

また、日本伐木チャンピオンシップへの取り組みを評価いただき、本年度よりチェーンソーメーカーのハスクバーナー様によるチェーンソー講習を実施していただきます。この講習はいくつかの森林大学校で行われていたもので、高校では本校が最初となります。

さらに、地元勝央町指定天然記念物のカゴノキ林の保全活動や津山市民が緑に親しむための公園であるグリーンヒルズ津山で開催された、森林を^{もり}考える岡山県民のつどいで、レーザー加工機を用いて制作した樹木プレートを小学生と取り付ける活動も行い、津山市長様から感謝状もいただきました。

特色ある取り組みとしては、SAVE JAPANプロジェクト支援事業による岡山県内の小中学生を招いての森林教室や小学生との森林体験交流学习、津山市黒木キャンプ場で行われた山フェスへの参加、JR勝間田駅の整備事業も行いました。これらの活動も評価され、全国林業研究グループ連絡協議会主催、全国頑張る林業高校生表彰では2位優秀賞を受賞しました。

勝間田高校では、これらの活動を通じて多くの人材を近隣の林業事業体・森林組合様に輩出しています。

以上で活動報告を終わります。ご清聴ありがとうございました。

—— テーマ ——

林業における働き方改革の実現に向けて

【株式会社戸川木材】 代表取締役 戸川 睦徳



【戸川】

林業における働き方改革の実現に向けて、弊社の取り組みについて発表いたします。

所在は岡山県新見市。社員数は現在32名、うち女性が6名。経営理念は「創意と工夫」を掲げております。

自己紹介になります。私は昭和38年生まれ、昨年還暦を迎えました。地元高校を出、そして島根大学林学科を卒業後、家業である林業を手伝うようになり、平成8年、有限会社へと法人化と同時に事業を承継いたしました。現在、新見地区木材組合組合長ほか委員を務めさせていただいております。

会社の概要ですが、会社があるのは、岡山県西部の新見市で、広島県との県境になります。今、存続問題が議論されておりますJR芸備線がこの目の前を通っております。

事務所内ですが、「絆」という清水寺 森清範貫主の直筆の書で、2011年、東日本大震災の年、今年の漢字で「絆」と揮毫されたものです。また、インターネットホワイトボードで各現場の進捗状況をみんなで共有するために使用いたしております。

沿革ですが、平成17年、国有林間伐推進コンクールで最優秀賞をいただきました。平成28年、FSC、SGECのCoCを取得しました。令和4年から3年続けて健康経営優良法人の認定を受けました。昨年、働き方改革パイオニア企業の表彰もいただきました。

機械化の始まりということで、弊社の歩みをお話いたします。

昭和63年、揺動式グラップルソーを導入しました。その当時、王子製紙傘下のチップ工場より、北海道で使っていたトラック架装のグラップルソーがデモ機として入ってきました。

た。これまでは、2mに切った材を人の力では積みをし、架線集材を行っていました。ところが、この機械が入ったことで作業が一変しました。架線での全木集材、土場でのグラップルソーによる玉切り・積み込みにより、トビとかスリングワイヤーがいらなくなり、肉体労働の大幅な削減が実現いたしました。

平成8年にフィンランド製のKET100ハーベスタを導入しました。これにより、広葉樹のバルブ用材から針葉樹用材の生産にシフトいたしました。

平成17年には、ザウルスロボを導入し、国有林で、その当時走りであった列上間伐、高密路網、高性能林業機械を投入して、国有林間伐推進コンクールで最優秀賞を受賞することができました。結果としては、生産性が6.3m³/人、生産コスト9,000円/m³ということで、これまでの生産性より3倍、生産コストで6割削減したことが評価をされました。

次に、平成19年、国内初となるマーキング仕様のハーベスタを導入しました。フィンランド製ケスラー25RHSです。導入したきっかけは、木材価格の低迷の中、流通コスト削減ということで、当時全国11ヶ所地域指定の新生産システムに参画し、製材工場への直送を始めました。しかしながら、素材生産業者が山土場で1本1本選別し、はい積みし、手作業による寸見、コスト削減をうたいながら、現実にはかなりハードルが高いと感じました。そこで、造材時にオペレーターが目視で、元口側だけではなく、選別が可能と判断し、オプションとして装着、導入しました。あらかじめ決めた仕分けボタンで選択することにより、丸太の末口に、切断・落下時に噴射しマーキングをする。赤色とか青色とか赤青混合とか無色というように識別ができます。そして、輸送はマーキングされた色別に積み込みを行なう、こういったシステムです。

また、オリジナルの機械も製作してきました。これは、スーパーロングリーチグラップルということで、0.45m³の油圧ショベルのアームを取り外して、大型トラックの移動式クレーンの5段ジブを装着しました。作業半径がこれまでの8mから約倍の16mに伸び、面積で4倍の集材が可能になりました。

また、林業現場は、非常に厳しい過酷な自然環境の中で仕事をするのに対して、社員の休憩場所を確保するため、フォワーダを改良して、テーブル、椅子、ストーブを設置しました。

トラック牽引車。これは、林道の中にはトラック輸送するには勾配がきつく、スリップをする等の理由でフォワーダ搬出が長距離に及ぶことがあります。クローラは軟弱地には強

い反面、移動性、耐熱放出性、圧雪時の操舵性には課題があり、イワフジのロギングトラクターT60にチェーンを巻き、トラックのシャーシを牽引するようにしたものです。

メンテナンス車。これもフォワーダの改良版なのですが、現場での給油、あるいはコンプレッサーを積んでの現場での整備に活躍をします。

こういった機械の管理は、自社での整備工場、そして専門の整備士を常駐させ、事務所内ではマグネットの写真をホワイトボードに貼って機械管理を行っております。現在の機械の保有台数は、フェラーバンチャ、ハーベスタ等々、57台を保有しております。

トラックは、チップ車、原木輸送車、重機回送車など大型11台を保有しております。

これらの機械設備を使用して、素材生産事業、木材チップ製造業を行っております。昨年の素材生産量が4万6,000m³。内訳として、国有林が2万6,000m³、民有林が2万m³。

昨年のチップ生産量は1万7,000tで、地元のバイオマス発電所、温浴施設、畜産の敷料、繊維ボード等々の原料に供給をいたしております。今年から近隣にバイオマス発電所が増設されることから、5,000t程度の増産が求められております。大型チップパーを操縦しているのが女性社員です。手元に移動式チップパーのリモコンがあり、遠隔操作をしております。

新たに植林事業にも取り組んでいます。今年2月にヒノキの少花粉のコンテナ苗3万本の生産をスタートさせました。植林事業に取り組む中で、労働負荷が高い苗木運搬作業をドローンによる機械化で省力化を図っています。一昨年、25キロ積載のドローンを導入いたしました。植林事業を始めたきっかけは、豊富に見える森林資源も、皆伐、再造林率30%になればいずれ枯渇する、木材を生業とするすべてのものが事業ができなくなる。事業を繋ぐためにも我々がやらなくてはならない使命だと思います。

追加ですが、更なる効率化を目指して、昨年7月、タワーヤード、オーストリアのマイヤーメルンホフ社のファルコン3Tを導入しました。今後、社員のスキルアップを行い、生産性向上とコスト削減のための切り札として導入に踏み切りました。

現在の事業として、国有林で一昨年、樹木採取権制度がスタート、発足しました。これは、国有林の一定の区域に生育する樹木を一定期間安定的に採取できる仕組みです。全国で10ヶ所選定がなされましたが、結果、現時点で8ヶ所が契約実行されております。そのうちの1ヶ所を当社が取り組んでいます。応募した理由は、近畿中国森林管理局管内で岡山県新見市に区域面積251haが設定されたこと、そして、長期安定的に事業が確保できる点、また、9年間かけて116haの伐採箇所を自由に絵が描けること、これに魅力を感じたためです。採取区の設定は最小1ha、最大5haでモザイク状に計画していきます。昨年は15ha、今年は17haを予定しております。

続いて、人材の確保について取り組みをお話しします。

弊社の従業員は、20代、30代が多いですが、最近経験のある60歳代の継続雇用、あるいは転職者の採用が目立っております。現在の平均年齢は43歳になっています。

一昨年4月から完全週休2日制を取り入れました。労働力不足の中で、他産業と同じ土俵に上がらないと勝負もできないということで実施しました。年間休日が36日、4割増え、123日になりました。その分、稼働日数が減少し、前年比生産量が13%減少しました。働き方改革は、生産性向上との両立が必要となってきます。

その他の取り組みとして、健活企業宣言を行い、健康経営優良法人を2022年から3年連続受けることができました。また、SDGs宣言も行い、持続可能な林業経営を目指しております。また、女性が現場で働く上で安心して働ける環境にするために、女性専用トイレの設置も行いました。このような取り組みが評価され、岡山県労働局から岡山働き方改革バイオニア企業として表彰されました。県内では4企業が表彰を受けましたが、林業界では初めてで、他産業に負けない雇用環境を評価していただきました。これらの取り組みにより、林業に思われていた危険で不安定そうな職種から、安心して就職できる地元企業になりました。

2022年10月号の現代林業の表紙を弊社の女性社員が飾りました。また、私ども夫婦と長男夫婦が昨年4月号の『林業新知識』に掲載していただきました。新見地域の林業事業体で作っているリーフレットです。第3版発行で、11事業体が掲載されております。

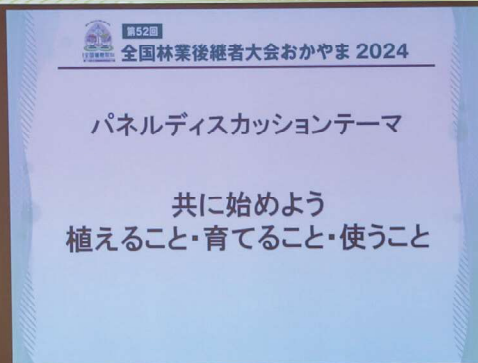
社内イベントとして社員旅行を行ったり、新見地域の素材生産者協議会主催のソフトボール大会にも参加しております。社会貢献活動として、岡山アダプト事業に参画して、年4回、県道の道路清掃、奉仕活動を行なっています。

朝礼では、日替わりで司会進行者が最後に仕事のことも、趣味のことも、家庭のことも、何でもいいのでスピーチを行い、人前で話すことにも慣れて、社会人としてのスキルアップを目指しております。

また、地域の子どもたちに林業を知ってもらうために、中学生の職場体験を受け入れ、林業について興味を持ってもらいました。また、小学生の支会活動にも協力し、森林での仕事を見学してもらいました。

今後の目標として、女性労働者数を全体の30%以上に、また、フレックス制については、子育て世代の女性が就労できるように、きめ細かい就業時間の中で働ける環境にしていきたいと考えております。地域貢献のために、微力ながら雇用の確保と今の時代に見合う就労条件を兼ね備え、次の世代にバトンを渡していきたいと考えております。

以上で発表を終わります。ご清聴ありがとうございました。



パネルディスカッション

テーマ:共に始めよう 植えること・育てること・使うこと

【嶋】

はじめさせていただきたいと思います。よろしくお願いいたします。

まず最初に、今、活動発表した4団体に加えまして、新たに岡山県森林組合連合会さんに加わっていただきましたので、簡単に自己紹介をお願いいたします。



嶋

【奥山】

岡山県森林組合連合会木材販売課長の奥山と申します。

私は、当会が平成27年4月から行っております、皆伐跡地の再造林促進支援を目的とした皆伐再造林促進支援事業と、令和3年から持続可能な森林施業から産出された100%岡山県産森林認証材のスギ・ヒノキを

使って製造した構造用合板の販売を担当しております。皆さん、今日はどうぞよろしくお願いいたします。



奥山

木岡

【嶋】

ありがとうございました。もうひとつ、活動発表で久米郡森林組合さんから発表いただいたんですが、パネルディスカッションに加わっていただく方が交代いたしましたので、一言簡単にご挨拶をお願いします。

【池田】

失礼します。私は久米郡森林組合の参事をしております池田といいます。高校卒業してから今まで森林組合一本で仕事をしてきております。就職してから30数年経っております。小さい組合ですが、色々と事業を頑

コーディネーター	岡山大学 学術研究院 環境生命科学学域 教授	嶋 一徹
パネリスト	岡山林業未来会 会長	竹原 真和
	岡山林業未来会 事務局	廣瀬 美恵
	久米郡森林組合 参事	池田 政宏
	岡山県立勝間田高等学校 森林系列 教諭	鳥飼 智明
	岡山県立勝間田高等学校 森林系列 2年	田中 敬大
	岡山県立勝間田高等学校 森林系列 2年	山本 璃奈
	株式会社戸川木材 代表取締役	戸川 陸徳
	岡山県森林組合連合会 木材販売課 課長	奥山 総一郎

張っております。本日はよろしくお願いいたします。



【嶋】

それでは、始めたいと思います。パネルディスカッションを始める前に、簡単にですが、会場の皆さんとパネラーの方々とこれから議論する課題について簡単に共有したいと思います。

皆さん、よくご存じの林業サイクルですが、このもととなるものは何かと言えば、人工林、スギ・ヒノキということになってきます。

先ほども、何名もの方が、「将来、木がなくなるよ。」という話をいたしましたけども、現在、10齢級以上の森林が約80%、蓄積で90%ぐらいを占めているんですが、これに対して5齢級以下は、現在10%以下ということ

で、ほとんど将来木がなくなってしまうということが割と簡単に言われていますが、将来、「伐って・使って・植える・育てる」この循環をするためには、将来の少子高齢化の進んだ木をなんとかしなければいけない。

21おかやま森林・林業ビジョンでは、人工林のうち3分の1程度は経営が成り立たないだろうから、公益的機能を担保するために針広混交林、あるいは育成複層林へ移行しようというんですが、残り3分の2の森林については、しっかり林業サイクルを回していく責務が私たちにはあります。

そういう中で、じゃあ、どうしようか、ということです。森林組合についての数字ですが、保育面積が減っていく中、「伐って・使う」方、要するに素材取扱量は着実に増えております。これは豊富な資源、60年代、70年代に植えられた資源が豊富にあるために、いわゆる私たち世代以下の人たちは、林業という「伐って」、チェーンソーを使って伐るということばかりなんです。実は、少子高齢化が進んだ山のなかで、「植える」事業というのがほとんど進んでいないというのが現状であります。ですので、造林面積は、年間100haそこそこしかありません。

それから、林業の担い手がどうなっているかということですが、一時の急激な減少はなんとか収まって、林業就業者数は横ばい傾向になっております。また、関係者の努力で、39歳以下の若手の割合は、平成17年と比べかなり上がっておりまして、平成17年は17%だったのが、令和2年には29%まで上昇している。ですが、横ばいに

なっただけで増えたわけではなく、今後新たな森を育成するためには、林業に若手の人、あるいは、新規の事業者を参入しながら進めていくと同時に、「伐って・使う」から「植えて・育てる」方へ構造を変えていかなければいけないということで、今日は皆様と一緒にこれを議論したいと思います。

まず、最初は、担い手の育成はどうでしょう、ということです。その次に、その担い手の育成ができたとして、それを林業サイクルの循環に繋げるためには私たちに何が必要か、ということを皆様と議論できればと思います。よろしくお願いいたします。

まず、最初ですが、担い手を育成するにはどうしたらよいかということなのですが、これには、色々な方法があると思うんですが、一つは、将来林業を担ってくれるであろう候補の人たち、若い人たちに魅力を持ってもらう、関心を持ってもらう、というのがまず第一歩かなというふうに思います。そういう点で、林業未来会さんは林業体験、あるいは木育等に熱心に取り組んでおられます。それから、久米郡森林組合さんも先ほどの活動発表で、そういう活動に熱心に取り組んでおられますが、この若手に林業に関心を持ってもらうということについては、どういう方針で活動をしているか、また、実際に手ごたえとか、やってみてどんな感じか、その辺の感想なり、手ごたえを教えてくださいたいんですが、未来会さんからお願いいたします。



竹原

岡

【竹原】

未来会としては、木育ってということにちょっと力を入れています。これまで、木育はこども園とか保育園を中心に活動してきました。これからは小学校、中学校まで広げていき、林業を身近に知ってもらい、また林業の魅力

を伝えていきたいと思っています。

林業体験での高校生の感想で聞くのは、やっぱり、「おいちゃんがやっている。」、という感想が多く聞かれます。僕たちみたいな、僕、若いかなぁと分からんような世代なんですけど、もっと若い人が働きやすいっていう職場、あと、僕たちが派手な防護衣を着ているんで、そこにもちょっと興味を示してくれるっていうことが体験会とかでちょっと感じることです。

ですから、どんな形でも林業という職業に興味を持ってもらい、また体験を通じて林業の魅力を発信していければと思います。

【嶋】

ありがとうございます。久米郡森林組合の方はどうでしょうか。

【池田】

先ほどの活動発表の中でもありましたけど、素人さん向けに共生の森保育の集いとか、1日林業体験とかいうところを通じて、林業を知ってもらおうというところをまずやっております。

それから、最近では小学生低学年から高学年ぐらいまで木育を兼ねた教室というのをやっております、小学生に枝打ちとかをやってもらうんですが、結構みんな楽しんでやっていたくというところがあります。

そういうところから山に興味を持ってもらって、中学校・高校と職場体験とか色々な所で、また、今度は重機に乗ってもらったりという体験で面白さを分かってもらって、そこから進めていきたいなというところでやっております。

【嶋】

ありがとうございます。こういう取り組み、非常に、すぐに効果はでないかもしれませんが、例えば、アポロ計画の頃、子どもだった人たちのかなりが、科学者になりたいと言って、アメリカで科学者になっている。動機がアポロ計画だと。ですので、昔、皆さんご存じかどうか分かりませんが、『WOOD JOB!』という映画がありましたが、ああいうのを定期的に出して若い人を取り込むとか、色々な方法ももう少しやっていただければいいなと思います。

それと、こういう風に、興味を持った、実際に林業に就きたいな、あるいは、こういう関係の仕事をしたいな、と思っても、実際に林業のイメージはどうだろうか、という

と、先ほど戸川さんの発表にございましたが、やはり、3Kとか、現実として災害が多いような職種ですね。そこで、担い手の確保のためには、皆さんの関心を持つ、若い人の関心を持つ、興味を持つ以外に、事業体側としても、例えば、トラック運転手が今、足りなくなっているというんで、いっぱい運送業界は努力をしていますよね。私たちの方も若手を確保して、将来に繋げていくためには、事業体側の努力も必要だということで、先ほど、発表していただきました戸川さんの方から、どのようなきっかけで始めたかというのをもう少し、それからもう一つ、その効果、先ほど、生産性がちょっと落ちると言われましたが、苦しいところもあるでしょうけれども、経営面での影響とその効果、このことについて少しお教えてください。



【戸川】

今の林業の職場のイメージに近く、屋外で天候に左右され、危険性があり、3K職場といわれ、改善してきた建設業界がやってきたことを、まず真似てみました。リスクアセスメントやKY活動、朝のミーティング、ラジオ体操、終業時のヒヤリハット報告などです。

労災事故がゼロになったわけではないですが、事故は経験して身に着けるものではないので、人の経験談を聞いてイメージしたり、起こりうる危険性を予知してきた結果、ずいぶん減ったと思います。

また、職場環境に関しては、他産業が行っている事を真似てみました。健康経営であるとか、育休、完全週休二日制の導入、決算賞与の支給など他産業が当たり前にやっている事をやったうえで、岸田総理の言う賃上げができればと思っています。

効果としては、昨年、農大から新卒で入ってくれた社員が入社の手決め手の1つが完全週休二日制であること

をあげていました。しかし、全てが良しではなく、休みが増えたことで稼働日が13%減少しました。結果、年間生産量が前年と比較し13%、全く稼働日と同じだけ減ってしまい、生産性向上と働き方改革は同時に進行しなければ経営が成り立たないということを実感しました。

【嶋】

ありがとうございます。確かに理想を言うのは簡単なんですが、実際としては事業体として経営も成り立たなければいけない。しかし、人材も確保しなければいけない。その両方をマッチするところでなんとか落とすところを見つけないと、先ほども言いましたように、林業サイクルを回す元となる森の少子高齢化は防げないわけですね。

今日は、地元の将来の林業を担うであろうと期待しております勝間田高校の森林系列から先生と学生さんにもお越しいただいております。はじめに先生の方にお尋ねいたしますが、さまざまな活動を通じて、林業に就職するための動機付けをということから、この県内の皆さんの活動への手応えは、高校生たちを見ててどんな感じがいたしますでしょうか。

【鳥飼】

以前に比べると林業関係の就職を希望する生徒も増えてきていて、本年度の3年生でも半数の生徒が林業関連企業への就職を希望していて、そういう面からも手応えというを感じています。地域の事業体様、それから行政の方のご支援等もいただいてということで非常に手応えを感じているというふうに言わせていただきます。



【嶋】

ありがとうございます。先生側からは手応えがあるということなんですが、学生さんたちはどうでしょうか。未来会さんたちとか久米郡森林組合の方が訪れて色々なことをしていると思いますが、実際のところ、こういう活動や取り組みが自分たちにどういった印象を与えているか、感想を教えてください。

【山本】

今回、聞いてみて、企業側からの人材確保するための取り組みを聞くことはなかなかないので、とても為になるし、いい経験をしたなと思います。



【田中】

僕はちょっと質問的な形になるんですけど、自分が中学生の時に、林業のイベントなどが全然なく、林業に関することが全く分からなくて、今の中高生は1日が主に勉強や部活動、スマホなどをして終わっていると思うので、SNSで林業の魅力を宣伝することに取り組んだりしているんですか。



【嶋】

分かりました。もうひとつ、あらかじめ言っておかなければいけなかったかもしれませんが、皆さんにどんなことをしてくれたら、もっと若者の心をつかむことができるのか。さっきSNSがよいと言っていたけど、高校生にとっては、紙でパッとチラシを見せられるよりは、そういうところに皆さん注目しているんでしょうか。あるいは、体験っていうのはどうでしょうか。実際にやってみた方がやはり分かりやすいでしょうか。

【嶋】

いろんな活動があるんですが、今話しているところだと、先ほど申しましたように、まずは動機付けして関心を持ってもらう。ただ関心を持ってもらうなかで、やっぱり戸川さんがおっしゃったように、きつい建設業の昔の悪い習慣のようなもの残っているというのが事実なわけで、それを改良しなければいけないが、全部のことができるわけではなくて、可能な範囲でそういう努力をしつつ、若者を取り入れることが必要なんです。もう一つそこで考えなければいけないのは、いわゆる私たち、私、60になるんですが、林業というどうしてもチェーンソーを持って山に行くというイメージです。林業体験というと間伐をするイメージが私たちの世代なんです。その前、私たちが生まれた60年代、あるいは、70年代というのは、もっぱら、日本に木がないわけですから、拡大造林が広がって、「植えて・育てる」、下刈りをする、こういうのが林業だったんですね。これから、どうだろうかとすると、50歳以下、50歳以下の森林がほとんどない時代で、「植えて・育てる」方を林業にシフトしなければいけない。そうになると、林業の魅力を伝えるということの中で、「植えて・育てる」、今使っているのが、おじいさんおばあさんの代だよ、これから自分たちが「植えて・育てる」ということにやりがいをもって働かなければいけないよ、ということも伝えなければいけないと感じております。この点で、先ほどのお話を伺いました林業未来会さんや久米郡森林組合さんの色々な担い手の育成の活動の中で、これからの世代が使命感をもって森づくりをすることについては、どのように皆に伝えて認識してもらっているのか。あるいは、今後どういうふうにして「植えて・育てる」部分を次世代に伝えていけばいいかということをお聞きかせ願いたいんですが、未来会さんお願いします。

【廣瀬】

今、植樹祭関連で「植える」っていうイベントが各地で多く開催されているんですけど、関連イベントで終わるのではなく、これからも年に数回でも県民参加型のイベントを自治体に開催してもらえるように働きかけていきたいと思いますし、また、山を遠くから眺めて、ただ綺麗だなというので終わるのでなく、誰でもが山に入って自然と触れ合い、遊ぶ、そして、「植える・育てる」の機会を増やす事が重要だと思います。私たちがこれからちょっと頑張っていきたいと思うことは、「植えて・育てる」、これも木育で実際に植林体験をしてもらったり、枝打ちの体験を企画したりして、自分たちが成長していくのと同じように木も育っていることを身近に感じてもらえれば、今よりもっと山に関心をもってもらえるのかなとは思っています。



【嶋】

ありがとうございます。もうひとつ、追加で聞きたいんですが、「植える」ことを教えるのも結構なんですけど、今、伐った木が、誰が植えたのかなということを認識させるような何か取り組みはされていますか。前の世代の人たちが一生懸命植えたものがここにあるよ、だから・・・、という繋がりがひとつ必要なと思います。そのあたり何か工夫をされているのか、今後工夫をするつもりか、あるいはこんなふうにしたらどうかということがあれば教えてください。今、伐ろうとしている木は、前の世代が植えたもので、自分が植えた木ではないわけですね。どこの誰が植えた木か分からない木を相手にするよりも、やはり植えた方が愛着があるわけですね。山に行きますと、松枯れなんかで枯れた木があって、倒させてくれと言っても、あれは私が植えたと言って、90近いおじいさんが

絶対に伐らせないというようなことがある。やはり植えた木というのは愛着がわくものです。植えて伐る、世代が繋ぐ、と同時に、今やっている人たちもその前の世代を思いやる心がやはり大切かと、子どもたちにそういう点を教えるのはどうでしょうか。

【廣瀬】

まだ現在では、私たち林研グループの中ではそういう活動を今一切していないんですけど、勝間田高校さんが樹木プレートを使ってやっていたというのを今日聞いて、それを今後、もちろん植林した木はまだ小さいので、ちょっとそこにプレートを立てておくとかして、自分たちが木を植えたということを活動の中に一つ入れたいですし、もし、小学生、中学生とかに伝えるのであれば、これはみんなのおじいちゃん、おばあちゃんが頑張って植えたんだよということを言葉でしか伝えることはできないですけど、そういう活動も含めて入れていきたいなと思います。

【嶋】

ありがとうございます。久米郡森林組合さんとしてはいかがでしょうか。

【池田】

まず、山でのレクリエーションや森づくりの楽しさを小さい時から体験してもらうことが一番かなと思います。

その中でも、先ほど先生のご質問にもありました、ちょうど今、小学生を対象にしている時に、これが今何年生の木かというのを、ちょうど伐った木の年輪を数えて、お父さんの代とか、おじいさんの代に植えた木だということを教えていたり、あと、枝を切って工作したりするんですが、それも若い木の枝とか、400年近い木を伐った時の枝を集めて置いているんですけど、「これは何年前の木よ。」という感じで色々子どもたちに言って、「あ、そんなに古い木なんじゃ。」とか、「これはおじいちゃんが植えた木なんじゃな。」とかいうのを思ってもらおうことをしています。

今後については、今は現場で体験をしてもらっているんですが、例えば、現場と教室をオンラインで繋いで、子どもたちが近くにいると危ないようなことをオンライン通じて見てもらうことも近いうちにはやっていきたいと思っています。

そういうことをしていったら、「山が身近にあるんじゃない。」というのを思ってもらって、学校の教育の一環の

中で進めていったらいいのかなというふうに思っております。

【嶋】

ありがとうございます。伐採・搬出してすぐに収入を得る活動と違って、植えて、10年くらい下刈りをしたり、除伐をするという行為はなかなか収入に直結しないために、どうしても、教育的にはいいかもしれませんが、将来、「僕も植えて生計を立てよう!」というふうにはなかなか思わない。そこは難しいところなのかなというふうに思います。勝間田高校の学生さんたちは、「植えて・育てる」という、いわゆる「伐って・使う」のその後、循環させることについて、これまでどんな意識を持っていましたか。

【山本】

私たちは入学後すぐにヒノキの播種を行い、先日は床替えをしました。自分たちが苦勞して育てた苗が、山に植えて育っていくことで森林が持続していくと思います。これまであまり意識していませんでしたが、とても大切なことだと思います。

【嶋】

もう一つ教えてください。勝間田高校は毎年毎年植えていますよね。そうすると昔の先輩とか、自分の友達のお父さんが植えた山とかいうのも見る機会はあるんですか。

【田中】

先輩が植えたヒノキの苗は、もう一つの畑に植えてあって、先輩が植えた苗なども一緒に育てたりはしているんですけど、自分のお父さんの代が植えたのは全然見たことはないです。

【嶋】

ぜひ見せてもらってください。たぶん地元で林業をされている方々の中にも勝間田高校出身の方がおられるでしょうし、その頃同じような実習があれば植えているはずですね。

先生の方は、今までの話を聞いて、「植えて・育てる」ということのやりがいというふうに学生さんにお伝えしているんですか。

【鳥飼】

「植えて・育てる」という部分、植林から保育という部

分になるかと思うんですけども、なかなか教員がその魅力を伝えようと思っても、「また同じ話をしているな。」というようなことが生徒たちには出てくるんじゃないかと思っています。

こちらにおられる未来会の竹原様や廣瀬様もそうですし、かわうち林業さんとか、色々実際に林業をされている方が熱く生徒に思いを伝えてくださるので、そういうようなところで、生徒たちも林業という仕事に対する「いいな。」というような魅力というのを、やりがいというのを、感じているんじゃないかなと思っています。

こちらにご参集の方も、皆さん、地域では事業体等で働いておられる方だと思いますので、地域の林業の高校生たちにもそういった魅力というのを伝えていただければ、たぶん教員が話すよりもっと生徒に伝わっていくんじゃないかと思いますので、ひとつよろしく願います。

【嶋】

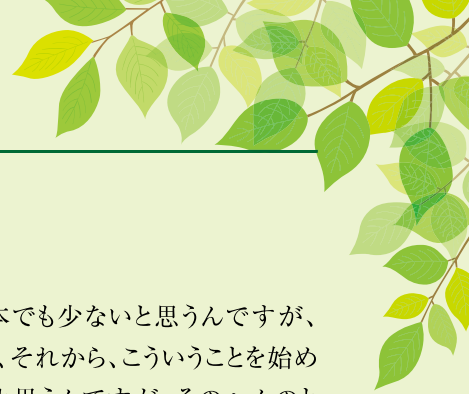
ありがとうございます。今までのような活動で、地道な努力ですが、使命感を持って森づくりをするという意識を子どもたちにつける。ただ、現実的には、じゃあ、林業サイクルを回すために、今、偏った少子高齢化の進む山をどうやって再造林していくか、という問題が残っております。

先ほどお話ししましたように、県内の森林組合の再造林面積は100haそこそこで、目標を大きく下回っております。なぜ植えないかという、ほとんどの所有者の方が経済的な不安から、「もういいや。」という感じになるのではないかということが色々な数字で出ておりますが、そんな中、いくつかの県では、素材生産の現場と次に造林をする業者が協定を結んで、うまく作業の効率化を図って少コスト化を図るなど、色んな取り組みがされていると思うんですが、久米郡森林組合さんでは実際に若手が来だした、その後に各地の色々な取り組みを見て、造林・保育活動というのはどんな取り組みをされているんでしょうか。

【池田】

久米郡森林組合の管内では、先ほど話の中でありました、再造林率というのはちょっと少ないです。

現在のところ、森林経営に意欲のある山林の所有者の方が造林とか保育をしているというような形で、これから再造林を進めていくうえで、国の補助や県の補助を活



用することがまず一番だとは思いますが、一番ネックになるのが所有者の費用負担だと思うので、森林環境譲与税の一部を使って、造林や保育の負担を減らしつつ、長期的な経営ができればというのをこれからどんどん推し進めていって、再造林率を上げていきたいなと思っています。

素材生産業者の人も色々おられて、結構組合に情報をくれる人もおられますし、片やそうでないところもあるので、最近特に伐採届がきちんと出されていると思いますので、町からも伐る所の情報をいただいて、なるべく、所有者さんに話をもっていって進めていきたいと思っています。

【嶋】

ありがとうございます。今ちょっと出ました熱心な所有者さんというのは、やはり思い入れの違いですか。それとも経費的なものですか。例えば、色々な組合が合わさって、あるいは、林業機械をうまく使うことでコストダウンをこれからまだまだ図れると思うんですね。そういう中で所有者の意向を変えるという面で、コストダウンというのは将来どうなんですか。

【池田】

コストダウンで言えば、戸川さんが一貫でやっておられるんで、たぶん戸川さんの方が詳しいかと思いますが、一般的には、伐るところから植えるところまでという一貫施業かなと思います。ただ素材生産の目的だけではなく、戸川さんのところでやっておられますバイオマス関係のチップとかということまで、材料をいかに効率よく搬出してということがまず一番だと思います。結構山を見ても、枝葉とか、株の方のちょっと曲がった部分とかをそのままにしている所が結構あります。結構広い道があってもそういう所はあるので、そういうのも活用しながら、所得を増やしていくことがまず一番かなと思います。

【嶋】

わかりました。とりあえず、林業機械の稼働率を下げないようにというのが目いっぱいでしょうから、なかなか手が回らないのは、皆さんの共通した課題かなと思うんです。そんな中で、先ほど発表いただきました戸川さんの方は、民間事業体として苗木生産から植林まで一貫した部分に取り組み始めておりますが、なかなかこういう取り組みを一貫して自分のところでやろうと取り組みをさ

れた事業体というのは日本でも少ないと思うんですが、そのきっかけとか経緯、それから、こういうことを始めて、色んな課題が出てくると思うんですが、そのへんのところを皆さんにご紹介いただければと思います。

【戸川】

苗木生産を始めようと思ったきっかけは、苗畑面積の急激な減少と苗木生産事業者の減少・高齢化なんです。県下で最大森林面積の新見市でも生産者は1名という状況です。また、裸苗からコンテナ苗へ移行したということで生産の効率が図れるからと思ったのも苗木の生産を始めようと思ったきっかけです。種を播いてから山行苗まで育てるのに約2年を要します。一朝一夕でできるものではないと思います。

先ほどからでています、再造林率を上げよう、上げようと言っても、再造林率を上げた時に、果たして、苗木が間に合うのか、ということが非常に問題だろうと思います。今、先人たちが残してくれたもので我々は事業を展開しております。将来の人たちも同じように木材に携わる仕事ができるように、豊かな森林資源を残すために苗木生産を始めました。

バイオマス発電の稼働で林地残材が回収できるようになり、地拵えをするのではなく、森林資源を余すことなく利用することで、自然と植林ができる状態になるというような位置づけで意識してもらったらいいいのかなと思います。

そして、人力で苗木の運搬をする、この負担を少しでも軽減できるように植え付けの手元にドローンを利用して配ることができれば、労働負荷の低減と作業効率向上につながっていると思っています。

【嶋】

ありがとうございます。就労環境を改善して、若手の人を取り込もうという活動の中で、こういう造林・保育作業を入れるということはメリットになるものなんですか。

【戸川】

人それぞれ考え方があって思うんですけど、今は機械化ということで、若手20代、30代が重機に乗って高性能林業機械が使えるから、こうやって参入をしてくれていると思います。

先ほどの説明にもありましたように、結構若手の割合は減ってないんですよ。逆に増加傾向にある。ただ高齢

者の人数がどんどん減って、約半減してはおりますけど。そういった高性能林業機械を使える人材、なおかつ、生産性はそれによって3倍くらいにはねあがったんですけど。ただ全ての人がそういう意識ではないと思うんです。

やっぱり自然を愛し、将来に自然を残したいとか、環境問題に関心がある人とか、で、なおかつ、それに対して労働負荷が少なければ、植林をする人も出てくるんじゃないかなと。だから、植林・造林に関しては、もっともっと色々な機械化を進めるとか、アイデアを出すことによって省力化ができたり、色んなことをもっともっと考えられる余地があるのかなと思います。

【嶋】

ありがとうございます。戸川さんに、もう一つだけお伺いしたいのですが、岡山県内の林業就業者の数が1000人ちょっとで、減少が減ったといっても、まだまだ今のところの素材生産でいっぱい状態で、新たに「植えて・育てる」分には新規参入の人をかなり入れないとうまくいかないように私は思うんですが、こういう点で、異業種とか他の業種から新規参入の可能性みたいなものは何かありますか。あるいは他の事業体の方々にアドバイスというか、こういうアイデアがあるというような助言があればお願いしたいんですが、簡単にお願いします。

【戸川】

まず人を確保する第一歩というのは、職場環境を他産業並みにすること、そして、会社が利益をあげること、そして、木材価格の下落変動に左右されない企業体質を作り上げることだろうと思います。先ほどから話ができていますけど、植林事業に取り組んだ理由の一つが、利益が確保できる事業だと思っているからです。

植林に対する補助制度、国・県は元よりですけど、自治体での独自の補助があります。ちなみに、新見市なんですけど、岡山県で最大の森林環境譲与税を利用して、山主に対して、再造林をしてくれたら、1ヘクタール当たり10万円の奨励金を出しますとか、また実際に植林をした事業者に対して、植え付けをした事業者に対して、1本100円の植え付け補助を出すとか、このような制度を設けています。

木材価格の下落に関しては、担い手が半減しても、機械化で生産性が3倍になったおかげで、木材の生産量は年々増加しているような状況です。ちょっと前の話なんですけど、3年前にウッドショックがあって、その時、

ここ岡山県はヒノキ生産量が全国トップクラスということで、ヒノキの柱口なんか非常に高く、ウッドショックの時に55,000円／㎡ぐらいまで上がったんです。今、直近18,000円／㎡なんです。約32%まで落ち込んだ。

ところが、製品、合板なんですけど、一枚、ウッドショックで2,000円まで跳ね上がって、今、おそらく1,300円ぐらいで、65%ぐらいでとまってるんです。なぜか、原木と製品でこんなに違うのは、合板工場は、減産で生産調整をしてきた。価格を維持するための努力をされた。

素材生産業者は零細な業者がたくさんいて、値段が下がったら下がった分だけ生産性を上げて、どんどん出せ出せと。そうしたら、どうなるか。供給過剰になります。在庫過剰になります。決して、木材価格はあがりません。最終的には、これ燃料チップになるというような状況に恐らくなると思います。

ですので、素材生産業者に対しては、一つの事業地で地拵えを行って、植え付けを行って、収益を上げてくださいます。そうすることによって、木材生産量が必ず減ります。木材生産量が減れば、木材価格が安定します。そして、森林所有者にも喜ばれ、要は三方よしのwin-winの関係になるだろうと思います。ですから、素材生産業者の今のやり方を若干変える必要があるのかなと。収益性は維持できて、なおかつ、再造林できる、すべていいような状況になるのではなかろうかというのが今私の考え方です。

【嶋】

ありがとうございます。そういう中で皆さんの工夫も一つ必要なんでしょうけど、久米郡森林組合さんや戸川さんからも、森林環境譲与税の話ができましたけど、私たちの努力、それから後継者になんとか興味をもってもらう努力、労働環境の努力と同時に、ある程度動き出すためには、サポート体制も必要で、岡山県としても色々な造林補助などを用意しているところなんですけど、岡山県森林組合連合会さんは、皆伐再造林促進支援の基金を確か設けておられて、後継者の育成ばかりでなく造林事業もこの基金を使ってかなり手厚くサポートしているということですが、どんなことをしているか、ご説明いただけますでしょうか。

【奥山】

再造林率が高まらないという課題に対しまして、岡山県森林組合連合会としまして皆伐跡地の再造林促進

に対して後方支援を積極的にしていくということは、森林組合系統全体の最重要課題と捉えております。

また、岡山県ではヒノキの無垢の柱や土台を主に製材する製材業者がたくさんあることから、適寸の原木を途絶えることなく流通させる必要があります。そういった観点から、県内では率先して、平成27年から再造林とあと5年間の下刈りに対しまして、所有者負担を低減するために、皆伐・再造林促進支援のための基金を造成し、今日まで9年間で210haの再造林と延べ318haの下刈りに対して支援してまいりました。今後も、この事業を強く推進して再造林率の向上を達成することによって、私たちの子どもや孫へより良い森林資源を残していきたいというふうに考えております。

【嶋】

ありがとうございます。

私たちの努力でできることと、多少の支援がないとできないこと、色々皆さんとみてきたわけなんですけど、ここまでみますと、最初の話ですと、とにかく関心をもって林業に就いてもらおう、人材を確保しようと。ただそのためには事業体側も就労環境の改善に少し努力をして、経営がそれでだめになってしまっただけでは仕方ないわけですが、ある程度のところでなんとか落とすところを見つける努力をみせなければいけない。

その中で、「伐って・使って・植えて・育てる」の、どうしても今まで疎かになっていた「植えて・育てる」部分については、今後、木育とか林業体験活動の中で、積極的に、そういう面も含めて、林業やるんならこういうことだよ、サイクルをまわしているよ、という教育をぜひ取り組んでいただきたいと思います。

そんな中で、戸川木材さんからの色々アドバイスもありましたし、工夫をすればなんとかなるまだ余地が残っていると私は思いますので、ぜひ県内の事業体の方々、うまく連携を図って、これからの林業サイクルを回していただければというふうに思います。

これで簡単に結論がでる問題ではない、というのはここにおられる方々皆さんお分かりで、結論がでるんなら、あんな少子高齢化な木にはなっていませんので、今後益々もっと緊張感をもって、木の少子高齢化を防ぐ努力をしていきたいということでもあります。

最後にあと1〜2分ありますので、皆さま一言ずつ、簡単に何かコメントがあればお話しいただければと思うんですが、これは言っておきたいということがあればお願

いします。

【竹原】

「植える、育てる」とテーマとはちょっと変わっちゃうんですけど、僕も森林組合の従事者、現場従事者です。僕には妻、子どももいます。それで、僕の命、妻、子ども、支えなければいけませんね。僕の肩は重たいです。多分、林業従事者は誰でもそうだと思います。皆さんの命って重たいと思います。

今年、労災保険率が1000分の60から1000分の52に変わりました。ちょっとだけ下がりました。これ、すごいことだと思って思います。

僕たちは伐倒技術にちょっと特化して指導していますが、それってやっぱり今日教えたからって明日できるわけでもないんです。でも、意識を変えること。当たり前のことを馬鹿にせずちゃんとやるという意識を芽生えさせる。芽生えさせたら、もうその瞬間から安全に対する意識っていうのが変わってきます。

1人1人命を大事にしてもらいたいと思いますし、自分の命守れないやつは仲間を守れません。そこだけははっきり言いたいと思います。全国で色んな仲間が、死亡災害とか起きて、悲しい思いをするのがたくさんいます。そういう思いを少しでもなくしていきたいと思って未来会の活動をやっています。

多分未来会の会員みんながそんな思いで活動していますので、皆さんも今一度、意識を確認しながら作業に当たってもらいたいと思います。すみません、ちょっとテーマ変わりました。

【嶋】

いえいえ。それでは、今日のパネルディスカッションは、今の様な形で、今後ますます「伐って・使う・植える」をなんとか危機感を持って、私たちで、色んな面から努力していきたいと思いますので、今後とも岡山県の林業、ご支援よろしく願いいたします。

どうもありがとうございました。

閉会式典

大会宣言

今日、私たちは、岡山県津山市に集い、「未来へと森林と技術をつなげよう」をテーマに語り合いました。

今、私たちの周りには豊かな森林が広がっています。

この大会を契機に、この当たり前の風景が、森林を守り育ててきた人たちの努力により創られたものであると気づき、林業の魅力を再確認しました。

これまで先輩方が植え、育ててきた森林は、水不足や洪水、土砂災害、地球温暖化を防ぐなど、私たちの暮らしを守っています。

また、森林から生産される木材は、再生可能で環境への負荷の少ないすばらしい資源です。

この森林資源を将来にわたって大切に活用し、豊かな森林とともに、いつまでも安心して暮らすことができるよう、「伐って・使って・植えて・育てる」という林業のサイクルを循環させていくことが私たちの役割です。

私たちは、先輩方の技術を引き継ぐとともに、新たな技術も取り入れながら、今を生きる人たち、そして、未来で待つ人たちのために森林を守り育てていくことを宣言します。

令和6年5月25日

第52回全国林業後継者大会おかやま2024



岡山県立勝間田高等学校 森林系列 2年

田中 敬大 山本 璃奈



次期開催県挨拶

第53回全国林業後継者大会埼玉県実行委員会
会長

井上 淳治 様

ただいまご紹介いただきました、第53回全国林業後継者大会埼玉県実行委員会会長の井上と申します。埼玉県を代表して一言ご挨拶申し上げます。

まず、今回の岡山大会を作り上げていただきました、岡山県林業研究グループ連絡協議会、岡山県及び津山市の皆様、また関係者の皆様に心より感謝申し上げます。本当にありがとうございました。

来年は、埼玉県で第75回全国植樹祭が行われ、その前日に、「森が支える日本の未来、私たちの手で作り出そう」を大会テーマに埼玉県飯能市で全国林業後継者大会を開催します。

飯能市は江戸時代から続く西川材生産の中心地で、全国に3ヶ所ある森林文化都市を宣言している市町村のひとつです。また、市を挙げて森林認証に取り組んでいる林業と木材の街でもあります。

今回の素晴らしい岡山大会を参考にさせていただき、開催準備を進めてまいります。多くの林業関係者、森林に関心のある方、そして林研の仲間にお集まりいただき、大会テーマにありますように、「未来」を語り合っていきたいと思っております。

林業と木材の街、そして森林文化都市、埼玉県飯能市にぜひお越しください。お待ちしております。
簡単ではございますが、次期開催県の挨拶とさせていただきます。どうもありがとうございました。



閉会の言葉

第52回全国林業後継者大会岡山県実行委員会
副会長

平田 暁

皆様、長時間にわたり大変お疲れ様でございました。また、本日は全国各地からご参加いただきまして、誠にありがとうございました。

この岡山でこうした大会が盛大に開催され、事例発表や意見交換がなされたことは大変意義深いことだと思います。この大会を契機に、全国の森林・林業が活性化し、林業の振興や担い手確保、育成につながることを、心より祈念しております。

それでは、以上を持ちまして、第52回全国林業後継者大会おかやま2024を閉会いたします。どうもありがとうございました。

大会会場



津山文化センター

津山市中心部にそびえる鶴山公園の北西に隣接する、同市を代表する本格的ホール。

古来の社寺建築にみられる三層を支える斗棋(ときょう)構造が特徴。1967年に第8回BCS賞受賞、また「DOCOMOMO JAPAN選定日本におけるモダン・ムーブメント2005年度選定建築物」にも指定される。

大会の様子



客席



PR動画



一般受付



来賓受付

大会の様子



展示・物販コーナー(真庭森林・林業研究会)



展示・物販コーナー(岡山県立勝間田高等学校)



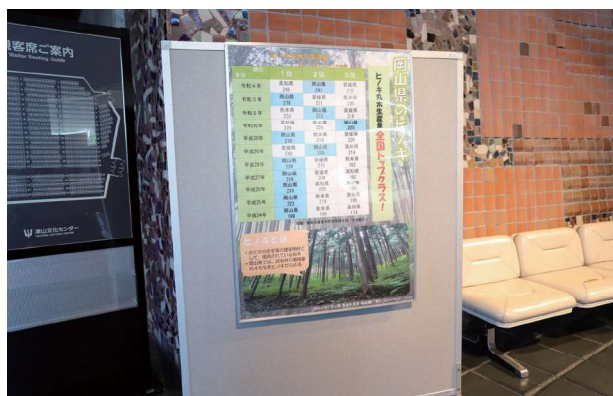
展示・物販コーナー(豊並樹苗生産組合(少花輪ヒノキ・スギ))



販売コーナー(地域商社つやまエリア株式会社曲辰)



パネル展示(岡山県林業研究グループ連絡協議会)



パネル展示(岡山県林政課)



チラシ配布



大会記念品(木製うちわ(美作ひのき使用))

豊かな森林を未来に繋ぐ。



岡山県森林組合連合会

岡山県の豊かな森林を守り育て、森林の循環利用と魅力ある林業の構築を目指しています。



木材の地域利用



認証材の製品化

原料は岡山県産ヒノキ間伐材を使用し、木製ピンバッジを作成いたしました。
また、岡山県内から出荷された認証材を県森連と原木取引のある林ベニヤ産業(株) (本社：大阪市)と連携し、「岡山県産材合板」として製品化しています。
このような取組は、間伐材を利用しているため環境に優しく、持続可能な社会の実現を目標としているSDGsに適していると私たちは考えます。

一貫施業



伐採→地拵え→植林

県森連の所有林整備を通じて、水源涵養やCO2の吸収など公益的機能の発揮を実現します。
豊かな森林は、多様な生物の生息環境を保全し、河川を通じて海の豊かさも育みます。

中間土場



サテライト共販

3流域の中下流地域に中間土場を整備します。
それにより輸送コストの削減およびCO2排出量の削減につながります。

SUSTAINABLE DEVELOPMENT GOALS

県森連、森林組合の活動の多くがSDGsに密接につながっています。その一貫として下記の事業に取り組んでいます。
その活動に系統が一丸となって取組、SDGs達成に貢献しております。
また、活動について積極的にアピールし、森林組合系統の認知度や社会的意義への理解を高めていきます。

詳細やその他の取り組み事例はホームページをご覧ください
<http://www.okmoriren.or.jp/>



祝 第52回全国林業後継者大会おかやま2024



一般社団法人岡山県木材組合連合会

会 長	田 中	信 行		
副会長	中 塚	利 信	原	敏 恭
	山 下	薫	武 本	哲 郎

岡山木材協同組合

備南玉野木材組合

邑久上道木材同業組合

御津郡木材同業組合

東備木材同業組合

倉敷木材組合

吉備木材同業組合

笠岡地区木材組合

小田郡木材同業組合

高梁地区木材組合

新見地区木材組合

真庭地区木材組合

津山地区木材組合

勝英木材同業組合

〒700-0902 岡山県岡山市北区錦町1番8号

TEL : 086-231-6677 FAX : 086-232-7549

Email : oka_mokuren@kaiteki-kinoie.or.jp

HPアドレス : <http://www.kaiteki-kinoie.or.jp/>

少花粉スギ・ヒノキコンテナ苗の安定供給を目指して

岡山県山林種苗協同組合



少花粉スギ
コンテナ苗



少花粉ヒノキ
コンテナ苗

理事長 難波 芳英
組合員・役職員一同

〒708-0022 岡山県津山市山下5 3
岡山県美作県民局別館4 F
TEL&FAX (0868) 24-0077

岡山県林業改良普及協会は 幅広い情報の発信と普及を通じて
森林・林業と農山村地域の発展に貢献します。

岡山県林業改良普及協会

○『林声』の発行、『林業新知識』の配布

会員の皆様に林業技術の最新情報・話題等を提供し、地域林業の発展に資するため機関誌『林声』を年6回（5・7・9・11・1・3月）発行。また、全国林業改良普及協会発行の機関誌『林業新知識』の配布をしています。

○『現代林業』『林野』の購読取次、配布

全国林業改良普及協会発行の月刊誌『現代林業』、林野庁発行の『林野』の購読取次・配布を行っています。

○その他の活動

林業に関する講習会、講演会および大会の開催ならびに協賛
林業に関する研修会、研究会および全国大会への参加
その他の本会の目的達成に必要な事項（全国林業改良普及協会刊行書の取扱など）

『林声』『林業新知識』購読者(会員)受付中！

岡山県林業改良普及協会の会員になれば、最新情報誌が送られてきます。
購読希望の方は、

電話 086-236-6530

Mail hukyu@okmoriren.or.jp

へ、ご連絡ください。 事務局(岡山県森連内) ※会費 年2,500円

スーパー繊維ロープ エースライン®



お問合せ・ご用命は

☎ 0868-26-1036

fax 0868-26-2603

✉ info@sanyo-trade.co.jp

山陽商事株式会社

Forest Design 

営業時間 平日 9:00 ~ 17:00





第52回全国林業後継者大会岡山県実行委員会事務局
(岡山県農林水産部林政課内)

TEL:086-226-7451(直通) FAX:086-221-6498